

目指すべきまちの姿

「ひとつながり、ゆたかな暮らしが続くまち」

大谷・小鹿地区の現状

強み	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・自治会、企業、学生、子ども等、既存で多様な主体が存在(NPO、学生団体、社会福祉協議会、小学校等) ・大学生や子ども達を対象にした既存のまちづくり活動やイベントが行われている ・地区の歴史が深く、行事、地域資源等が豊富 ・SICに隣接しており、広域での来訪者が見込まれる ・駿河区役所等、比較的近隣に市街地がある ・周辺に観光資源が点在(日本平、久能山東照宮等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・SICを活用した自動車の利便性が高い ・幹線道路に囲まれた地区である ・歩行者や自転車にとって比較的良好的な移動環境である ・地形が平坦で徒歩移動が容易 ・日本平・久能山等、周辺に観光資源が点在 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・ウォーキング、ランニング、スポーツに適したスケールメリットがある ・地形が平坦で、歩行・自転車による移動に適している ・周辺に山、海、川、緑等、自然観光に囲まれている ・海岸や富士山等の眺望が良い場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・地域資源(農地、河川、緑地)を活用したグリーンエネルギーの創出が期待できる(バイオマス、省水力発電等) ・思田原・片山地区が「脱炭素先行地域」に指定されている
地区特性	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・現状で、日常的な交流の機会、場所がない ・地域資源の発信、有効活用が十分にされていない ・東名高速道路による南北地区の物理的な分断 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・鉄道駅が遠い(静岡駅3.6km、東静岡駅3.1km) ・土地区画整理内は、現状でバス空白地区である ・近・中距離の移動は、自動車への依存度(分担率)が高い ・開発に伴う自動車交通量の増加による周辺道路の渋滞・事故の増加や駐車場不足への懸念 ・バスが静岡駅発着の路線が多く、雨の日に混雑する ・シェアサイクル需要が高まり、供給が不足する 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・ウォーキングコースやランニングコースが設定されていない ・目的地となる施設が集積している鉄道駅周辺の徒歩圏外に位置し、移動手段として車に依存してしまう傾向にある ・静岡市全体で全国平均に比べて市民の歩数が少なく、歩行する習慣が他都市に比べて定着していない ・近隣に総合病院がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地区画整理による基盤整備及び土地利用の推進 ・SICからの自動車の流入が多く、環境負荷が大きい ・公共交通が不便であり、自動車での移動に依存しがちであり、環境負荷が大きい ・地区周辺には高齢者が多く、円滑な非難が困難
機会	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術の進展 ○脱炭素社会の実現に向けた取組の加速 ○価値観・ライフスタイルの多様化 ○各分野のトレンド
脅威	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 ○価値観・ライフスタイルの多様化 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・少子高齢化 ○激甚化する自然災害の懸念 ○感染症の流行 ○各分野のトレンド

まちづくりの4つの視点	<p>モビリティ (快適な移動環境)</p> <p>行きたい場所に快適に移動できる</p>	<p>エネルギー (グリーン×安心)</p> <p>暮らしの満足度を下げずに省CO2、省エネを実現する</p>	<p>ウェルネス (健康長寿の促進)</p> <p>日常生活の中で健康を維持できる</p>	<p>コミュニティ (暮らしの充実)</p> <p>まちに賑わいを生み、地域への愛着を高める</p>
-------------	--	--	--	---

ワークショップによる課題整理

課題の整理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車) 2. 近距離移動の利便性向上 3. 公共交通の利便性向上 4. 多様な移動手段の効果的な活用 5. 自動車利用の適正化 6. 自動運転技術への対応 7. 地区周辺移動の把握 8. 物流の効率化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脱炭素社会実現への取組み 2. 既存の自然資源の保全・活用 3. 地区内での電力の自給自足 4. 災害対応力の強化 5. 個人単位の電力消費の低減(省エネ) 6. 自動車以外の移動手段の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車) 2. 歩き、健康維持の動機づくり 3. 目的地となる魅力あるまちづくり 4. 歩き、健康に関する意識・意欲向上 5. 歩き、健康維持を通じた交流拡大 6. 医療・福祉との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交流拠点となる場の創出 2. 交流プラットフォームの構築 3. 多様な主体の交流機会の創出(日常) 4. 多様な主体の交流機会の創出(イベント) 5. 地域資源の有効活用・継承 6. 新たな地域資源の発掘 7. 安全・便利・快適な生活環境の実現 8. 新しい日常への適応
-------	--	---	---	---

SWOT分析によるまちづくり方針の検討

まちづくり方針	<p>だれもが行きたい場所に移動でき、次世代の乗り物・サービスで移動がわくわくするまちづくり</p>	<p>エリアの価値を高めるエネルギー創り・かしこく使うまちづくり</p>	<p>健康増進・環境配慮につながるみんなが健幸になるまちづくり</p>	<p>地域資源を活かした、顔の見える未来のコミュニティづくり</p>
---------	--	--------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------

ワークショップによるまちづくりメニューの検討

まちづくりメニュー	<ol style="list-style-type: none"> 1. エリア内で多様な移動手段を利用できる環境づくり(エリア内移動) <ol style="list-style-type: none"> 1-① ラストワンマイル移動のためのきめ細かな交通サービスの導入 1-② 多様な移動手段を利用できる拠点づくり 1-③ 交通サービスの連携に向けたデータの利活用 2. エリア内と都市拠点を結び快適な移動手段を利用できる環境づくり(エリア内外) <ol style="list-style-type: none"> 2-① 高齢者や子育て世代等が安全に移動できる幹線的な交通サービスの導入 2-② 働く人・訪れる人・学ぶ人が快適に利用できる交通サービスの導入 2-③ 交通サービスの連携に向けたデータの利活用 3. 次世代モビリティの積極的な導入検討(次世代モビリティ) <ol style="list-style-type: none"> 3-① 少子高齢化時代に対応した先進的な自動運転技術の導入 3-② 人材不足に対応した物流サービスの導入 3-③ 交通サービスの連携に向けたデータの利活用 4. 災害時にも利用できる移動環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> 4-① 災害時における移動・避難のためのモビリティの確保 4-② 災害時においても物資やエネルギー等を輸送できるモビリティの活用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. エリアでエネルギーを創る(創エネ) <ol style="list-style-type: none"> 1-① 施設を活用したグリーンエネルギーの創出 1-② 地域資源を活用したクリーンエネルギーの創出 2. エリアでエネルギーをかしこく使う(省エネ・エネマネ) <ol style="list-style-type: none"> 2-① エリア内のエネルギーの融通 2-② エネルギー効率の良い建物の推奨 2-③ 脱炭素ライフスタイルの構築 3. ゆたかな自然環境形成と運動した温室効果ガスの吸収源確保(吸収源) <ol style="list-style-type: none"> 3-① 緑の形成・維持によるグリーンカーボンの取組 3-② 水辺環境の形成・維持によるブルーカーボンの取組 4. 災害に対応した自律的なインフラづくり(防災) <ol style="list-style-type: none"> 4-① 個々の建物や避難所等におけるグリーンエネルギー発電設備の整備 4-② 避難所等における蓄電施設や非常電源の整備 	<ol style="list-style-type: none"> 1. だれもが健幸になる環境づくり <ol style="list-style-type: none"> 1-① 安全・安心に運動や移動が行える環境整備 1-② 外出しなくなる景観や目的地の形成 2. だれもが健幸になる仕掛けづくり <ol style="list-style-type: none"> 2-① 運動するきっかけづくり 2-② 自ずと歩いてしまう仕組みづくり 3. 健康維持や運動に関する機会・意識づくり <ol style="list-style-type: none"> 3-① 健康イベントの開催・運営 3-② 健康に関する知識の習得 4. 医療・福祉・防災活動との積極的な連携 <ol style="list-style-type: none"> 4-① 医療機関・福祉施設との連携 4-② 防災活動との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な交流が生まれるプラットフォームづくり <ol style="list-style-type: none"> 1-① まちづくりに係る多様な活動を行うプラットフォームの設置・運営 1-② 地域の歴史・文化の継承 2. 多様な交流のための拠点・場づくり <ol style="list-style-type: none"> 2-① 多様な人々が集まることのできる交流空間の設置・運営 2-② まちのシンボル・ランドマークの形成 3. 多様な交流のための機会づくり <ol style="list-style-type: none"> 3-① 地域の人々による交流機会づくり 3-② 新たな人々との交流機会づくり 4. 防災活動や社会情勢等の変化への対応 <ol style="list-style-type: none"> 4-① 地域防災の強化 4-② 社会情勢等の変化への対応
-----------	--	--	---	---

実行計画
(短期・中期・長期)

令和6年～7年で策定